

(様式1)

平成31年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 024	提案機関名 環境農政局農政部農業振興課
要望問題名 いちごの減農薬栽培体系の確立	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 病害虫防除の手法として、天敵を利用した防除技術が開発されてきているが、慣行の栽培法では、未だに化学的防除に頼る部分が大きくなっている。そのため、定期的な薬散が必要となっているが、薬散回数の多さは、労力や費用の面で生産者の負担となっているほか、農薬事故の発生リスクを増やすこととなる。また、いちご狩りを導入する生産者にとっては、消費者のイメージ低下に直結する。 そこで、天敵放飼や防除資材を活用した減農薬栽培体系を確立し、化学農薬の散布回数を低減することで、上記の課題の解決を図る。	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産環境部病害虫研究課
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 <input checked="" type="checkbox"/> ④実施済 ⑤調査指導対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 園芸作物の主要病害虫に対する総合防除体系の確立（イチゴ）			
対応の内容等 すでにハダニ類対策としての天敵利用（カブリダニ類）および炭酸ガス施用、アザミウマ類対策としての赤色防虫ネットおよび天敵利用（アカメガシワクダアザミウマ）を用いた化学合成殺虫剤に依存しない、総合的な防除対策について試験研究を取り組み、一定の成果が得られ、「体系モデル」を出す予定です。 その一方で、土耕あるいは高設栽培等、現地の状況に応じて天敵の効果が安定しない事例が多く見受けられ、どの農家でも実践可能な「栽培体系化」までには至っておりません。いただいた問題は解決すべき課題ではありますが、実際の栽培状況を確認した上で取り組む必要があると考えます。また、微生物農薬等環境保全型防除剤やケイ酸カリ肥料などの病害防除資材についても同様に、現場の栽培状況に応じて組み込む必要があります。以上につきましては、普及指導と合わせて現地指導にあたりたいと思います。			
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			